

# 令和5年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
  - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
  - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
  - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名(音楽科)教科主任名 志関菜穂子

★教科・観点について  
 学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。<○成果 ▲課題>

観点	前半～9月			後半～1月		次年度に向けて まとめ	
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)		1次評価後の具体的な改善策
知識・技能	1年	○創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につけようとする姿勢。 ▲創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能。	パート別の練習に加えてすべてのパートを合わせる合唱の練習をしていく上で客観的に聴く機会を多く設定し、他者と合わせる楽しさや難しさを実感させる。	1年			
	2年	○全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能。 ▲表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい表現を創意工夫すること。	新たな知識や技能の習得と並行して、様々な表現を試しながら、創意工夫をさせる。また、曲固有のよさや特徴を捉えさせ、その曲にふさわしい表現に対する思いや意図の質を高めさせる。	2年			
	3年	○歌唱の活動において、音程やリズムを正しく演奏することができる。 ▲楽譜に使われている音符の構造や音楽用語についての知識。	プリントや授業内での振り返りを増やし、反復指導をすることで音符の構造や音楽用語に関する知識を定着させる。	3年			
思考・判断・表現	1年	▲曲に対する自分のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、音楽を形づくっている要素の働きや特徴などを試行錯誤しながら表現について考え、どのように表現するかについて思いや意図をもつ。	曲に書かれている音楽記号をただその通りに演奏するだけではなく、なぜその音楽記号がそこに書かれているのかということと他者と話し合わせ、理解を深めさせる。	1年			
	2年	▲鑑賞の批評文に関して、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。	生徒が感じ取った曲想を、自分の生活経験と結び付けて捉えさせる。また、自分としての感じ方を広げ、それと音楽の構造との関わりを捉え、解釈を深めていくことができるようにする。	2年			
	3年	○強弱や表現を生かし、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。 ▲作曲者の表現の工夫に気づき、なぜそのような工夫を取り入れた作曲をしているのかを考える。	曲を細分化して聴かせることで、作曲者の工夫を細かく捉えさせる。使われている楽器や音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴の工夫にも気づかせていく。	3年			
主体的に学習に取り組む態度	1年	○表現活動に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、表現活動を創意工夫できる。 ▲思いや意図を深めたり新たな思いや意図をもつたりする。	曲想と音楽の構造との関わりについての理解を深めるために、曲想を感じ取った理由を音楽の構造の視点から自分自分で捉えていくようにする。	1年			
	2年	▲曲や演奏に対する評価とその根拠について、自分なりの考えをもつとともに、自分とは異なる他者の考えにも耳を傾けるなどして、他者との関わりの中から自分の価値意識を再確認し、自分としての考えを一層深めていく。	曲や演奏に対する自分の評価だけではなく、そのように考える根拠を合わせて考えさせることで音楽に対する感性を一層豊かにさせる。	2年			
	3年	○歌唱の活動において、発声練習やパート練習に対して積極的に取り組むことができる。 ▲楽器や作曲者などChrome bookを使い、楽曲に関する知識を深める。	楽器や作曲者についてだけではなく、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりを理解できるように、音楽の捉え方を広げ、音楽を文化として捉え、音楽文化について考えることにつなげていく。	3年			